

教育に関する事務の管理及び執行状況の
点検及び評価に関する報告書
(令和6年度事業実績)

令和7年8月
茨城町教育委員会

目 次

I	教育に関する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価の概要	
1	経緯	1
2	目的	1
3	対象	2
4	点検及び評価の方法	2
5	茨城町教育委員会評価委員会委員	3
6	評価委員会実施日	3
II	茨城町の教育に関する事務事業の点検・評価結果（令和6年度事業）	4-5
III	教育に関する事務事業の点検・評価シート	
No.1	小学校理科教育設備整備事業	6
No.2	中学校理科教育設備整備事業	7
No.3	小学校入学祝い品贈呈事業	8
No.4	道徳教育推進事業	9
No.5	語学指導事業	10
No.6	教育支援センター事業	11
No.7	学習指導支援講師配置事業	12
No.8	特別支援教育支援員配置事業	13
No.9	中学生自然体験教室事業	14
No.10	農業体験事業	15
No.11	スクールバス運行事業(小学校)	16
No.12	スクールバス運行事業(中学校)	17
No.13	小学生ヘルメット配布事業	18
No.14	中学生ヘルメット配布事業	19
No.15	青少年育成事業	20
No.16	放課後子ども教室事業	21
No.17	町民教養講座開設事業	22
No.18	長生大学運営事業	23
No.19	図書館運営事務	24
No.20	読書推進活動事業	25
No.21	ブックスタート・セカンドブック事業	26
No.22	学校訪問事業	27
IV	教育委員会における今後の対応について	28

教育に関する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価の概要

1 経緯

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律（平成20年4月1日施行）の施行により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することが義務づけられた。

本報告書は、同法26条の規定に基づき、令和6年度における茨城町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、教育に関する学識経験を有する者の意見を付して報告するものである。

【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 目的

事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うことにより、事業の成果や課題を検証し、効率的かつ効果的な教育行政の推進に資することを目的とする。

3 対象

茨城町第6次総合計画前期基本計画に基づき、令和6年度に実施した教育委員会の主要な22事業を対象とした。

4 点検及び評価の方法

- (1) 各事業の取組状況について、必要性、有効性及び効率性の観点から検証した。
- (2) 各事業の成果と課題を検証し、今後の事業の方向性を確認した。
- (3) 学識経験者の知見を活用し、各事業を客観的に点検・評価した。

【原課評価：事業の執行者による自己評価】

各事業の取組状況について、必要性、有効性及び効率性の観点から3段階で評価し、観点別評価の理由を付した。

○必要性 ・ ・ ・ ・ 「必要性が高い」、「一定の必要性がある」、「必要性が低い」

○有効性 ・ ・ ・ ・ 「効果がある」、「一定の効果がある」、「効果がない」

○効率性 ・ ・ ・ ・ 「効率的である」、「概ね効率的である」、「効率的でない」

【委員評価：評価委員による評価】

各事業の今後の方向性について、「現行どおり」、「拡大」、「縮小」、「休止」及び「廃止」の5段階で評価し、言及された課題や改善策等を評価委員意見として付した。

5 茨城町教育委員会評価委員会委員

委員長

清水 正三 （元茨城町立梅香中学校校長）

副委員長

早乙女 恵美子 （元茨城町教育委員会職員）

委員

高倉 進 （学校法人田村学園 認定こども園 まさみ幼稚園園長）

6 評価委員会実施日

令和7年7月23日（水）

茨城町の教育に関する事務事業の点検・評価結果(令和6年度事業)

事業数	分類	目的	VLT	事業資源元				事業対象範囲				原課評価			委員評価	
				国	県	町	参	幼児/幼稚園	小学校	中学校	生涯教育	必要性	有効性	効率性	評価	意見等
1 2	整 備 校 施 設 の	理科教育の振興		○		○			No.1 小学校理科教育設備整備事業	No.2 中学校理科教育設備整備事業		高	高	高	現	理科教材の充実は、質の高い理科教育を提供するための基盤整備として極めて重要な役割を果たしている。特に、実験・観察に必要な最新の教育設備や教材の導入は、児童・生徒の興味・関心を引き出す効果が期待される。引き続き、国補助金を活用しながら理科設備の充実を図ってほしい。
3	生 き る 力 の 育 成 を 重 視 し た 教 育 活 動 の 推 進 ・ 心 の 問 題 へ の 対 応 ・ 安 全 対 策 ・ 通 学 対 策 の 推 進	健やかな成長と家庭支援				○			No.3 小学校入学祝い品贈呈事業			高	高	高	現	祖父母の方々から喜びの声を耳にしており、需要の高い事業と認識している。また、多色展開により子どもたちのニーズに応えようとする姿勢も評価できる。子どもたちの入学を祝う事業として、また、家庭への経済的支援においても効果があることから、今後も継続していただきたい。
4		規範意識や社会性の向上				○			No.4 道徳教育推進事業			高	高	高	現	町は以前から道徳教育を重点的に取り組んでいる。子どもたちの心の教育はとても大切な事業であるため、予算内で講師を依頼するのは大変かと思われるが、引き続き実施してほしい。
5		英語教育の強化と指導体制の充実				○			No.5 語学指導事業			高	高	高	現	ALTを直接雇用し、各校1名ずつ配置する体制は、多額の事業費を要するが、子どもたちが英語への関心や興味を持つには大変重要な取り組みである。良い人材を確保し、現行体制を今後も継続してもらいたい。
6		不登校児童・生徒の学校及び社会復帰の支援				○			No.6 教育支援センター事業			高	高	高	現	学校へ行けない子どもたちが増加しており、子どもや保護者の心のよりどころとして、教育支援センターの必要性を感じている。子どもの不登校からの社会復帰のための支援の場として今後も継続していただきたい。
7		個に応じたきめ細やかな学習支援				○			No.7 学習指導支援講師配置事業			高	高	高	現	評価項目を特定科目(算数・数学)の勉強・授業を「好きか」、「分かるか」という児童生徒本人の気持ちの表現とした評価方法としていることは好感が持てる。点数による評価よりも、児童生徒をいかに重きを置いて対応していることが理解できる。中学生の数値が年々下がっているのが気になるところではあるが、現状を維持し、支援を継続していただきたい。
8		個別に支援を要する児童・生徒の学校生活の支援				○			No.8 特別支援教育支援員配置事業			高	高	高	現	就学前の時点で発達が気になる子が多いと感じているが、保護者の理解を得られないケースが多い。支援員の配置に十分な予算を計上して実施していることは大変評価できるものである。本来ならば更なる増員をしてもよいと思うが、現状を維持し、継続をしていただきたい。
9		自然体験と集団生活を通じた人間育成				○				No.9 中学生自然体験教室事業		高	高	高	現	自然体験教室に係る諸経費が値上がりしているため、町助成金が保護者の負担軽減につながっている。周辺市町村では北海道を取りやめる動きもあるが、北海道での自然体験学習は有意義な体験の機会であるので、今後も継続していただきたい。
10		体験学習を通じた人間育成				○			No.10 農業体験事業			高	高	高	現	町の特性を活かしながら、授業の一環として地域の方、JAの方に協力を得て農業体験に取り組んでいることは大変素晴らしいと思う。農業の一端に触れることで作物の成長や旬を知ることの勉強になる。子どもたちも楽しんでおり、今後も継続していただきたい。
11 12		通学における利便性・安全性の向上				○	○		No.11 スクールバス運行事業(小学校)	No.12 スクールバス運行事業(中学校)		高	高	高	現	スクールバスを運行することによって、児童生徒が安全に登下校できることや、送迎などの家庭負担の軽減という観点から、重要な事業であると感じている。物価が高騰している中ではあるが、保護者負担金は現行水準で継続していただきたい。
13 14		通学における安全性の向上				○			No.13 小学生ヘルメット配布事業	No.14 中学生ヘルメット配布事業		高	高	高	現	児童の成長とヘルメットの耐用年数を考慮し、新入学児童だけでなく4年生にも配布していることや、自転車のヘルメット着用努力義務化に伴い、啓発の意を含めて当事業の意義は大きい。また、安全意識向上や事故防止という観点からも極めて有効であり、引き続き継続していただきたい。
15	体 験 学 習 ・ ・ ・ 交 流 の 機 会 の 開 発 ・ ・ ・ 能 力 の 向 上 ・ ・ ・ 青 少 年 の	体験学習を通じた人間育成	○			○	○		No.15 青少年育成事業			高	高	高	現	当事業は子どもたちの自然への関心や社会性の向上だけでなく、地域住民やボランティアとの連携強化にもつながっており、地域資源を活用した取り組みは地域振興においても大切であることから、今後も継続していただきたい。また、子どもたちにとっては普段できない貴重な体験を通して学びと成長に寄与する機会であり、今後も参加者がさらに増えるよう、引き続き努力していただきたい。
16		次代を担う人材の育成	○		○	○	○		No.16 放課後子ども教室事業			高	高	中	現	参加児童数が年々増加していることと、参加者へのアンケート調査により児童や保護者からも好評を得ているとことであり、多くの子どもたちが安心して通える環境が整備されていることが伺える。今後も利用者の声を聞きながら、国の補助金を活用して事業を実施していただきたい。
17		生涯学習と社会参加の促進	○			○	○				No.17 町民教養講座開設事業	高	高	高	現	地域住民の生涯学習意欲を喚起し、地域コミュニティの活性化が図れることと、参加者同士の交流促進や自己啓発意欲の向上など間接的な成果もみられる。良い事業であるため、ぜひ、事業を継続すること、より多くの方に参加してもらえるよう、全戸配布のチラシが届かない方への周知方法について検討をお願いしたい。
18		高齢者の生涯学習の促進				○	○				No.18 長生大学運営事業	高	高	中	現	高齢者にとっては社会とのつながりが大切であるため、継続して実施していただきたい。茨城県社会福祉協議会が実施している元気シニアバンク事業では、様々な分野の講師派遣(公演や指導)を行っているため、事業目的と合致しているものがあれば、活用を検討してみてもどうか。
19	用 備 運 生 促 充 施 涯 進 実 設 学 ・ の 習 利 整 関	地域における情報拠点としての図書館運営				○		No.19 図書館運営事務				中	中	高	現	昨年は利用者、貸出数とも減っているが、システム更新時の休館という物理的な理由でもあり、致し方ない。茨城町の図書館は分かりやすいように分類、整理されており、PC検索も簡単に資料を探しやすく、他市町村と比べても利用しやすい。出前サービスは幼稚園でもお世話になっており、今後も続けていただきたい事業である。
20	読 書 活 動 の 推 進	本に慣れ親しみやすい環境の提供	○			○		No.20 読書推進活動事業				高	高	高	現	単なる図書提供だけでなく、「読むこと」の楽しさや価値観を育むため、学校図書室への図書館司書の派遣は、とても有意義な事業である。本に触れる機会を作ること子どもたちの読書意欲向上に寄与していると思う。これからも学校と連携しながら堅実な図書室運営をするとともに、児童が人を思いやる心を育むことにつながる本との出会う機会をこれからもつくっていただきたい。
21		絵本を通じたコミュニケーションの促進	○			○		No.21 ブックス・スタート・セカンドブック事業				高	中	高	現	年齢に応じてオリジナル絵本を作成して配布することは、子どもにとって思い出に残る事業である。絵本は人の心を感動させる力を持っている。保護者をはじめ、色々な方から意見を聞き、子どもにとって記念に残る大切な本を作っていたきたい。
22	充 学 実 校 給 食 の	食についての関心の向上				○		No.22 学校訪問事業				高	高	高	現	食育と学校給食の質向上という観点から有効であると思う。また、学校給食は家庭の事情で不足する栄養を補う役割を担っている側面もあり、なくてはならない事業である。町内産の食材を積極的に使用するなど、今後とも関係者一丸となって取り組み、安全・安心かつ栄養豊富な学校給食の提供体制を築きあげていただきたい。

VLT:ボランティア協力者の有無 参:参加者負担金の有無

原課評価は、「高」、「中」、「低」の3段階評価

委員評価は、「現:現行どおり」、「拡:拡大」、「縮:縮小」、「休:休止」、「廃:廃止」の5段階評価

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.1

令和6年度

事業名	小学校理科教育設備整備事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育		
	主要施策		①学校設備の整備						
2 予算の体系	款	10	項	2	目	1	事業	13	小学校管理用備品購入費
3 事業費 (決算額)	財源		令和4年度			令和5年度		令和6年度	
	国・県・支出金					959 千円		566 千円	
	その他財源					0 千円		0 千円	
	一般財源					959 千円		566 千円	
4 事業の目的	対象	町立小学校児童							
	目的	科学的な知識、技能及び態度の習得の一助となるよう、実験器具、教材等の充実を図り、理科教育の環境整備に努める。							
5 事業の概要	国の理科教育設備整備費等補助金(昭和29年～ 根拠法令:理科教育設備整備費等補助金交付要綱)を活用し、理科・算数に関する教材等の設備を整備する。 【購入備品】顕微鏡、電子てんびん、関節の構造模型、鉄製スタンド等								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	理科教育設備整備校数						4校	4校	
	整備率(交付決定時の金額／各校要求額)						95%	91%	
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		理科設備は高額であり、更新できず古い設備を使用し続けている学校もあることから、補助金を活用し設備を整備することは必要である。						
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか		各学校に希望設備を確認したことにより、不足している理科設備や新たな理科設備の整備が図れ、より充実した理科教育を実施することができた。						
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか		理科教育設備整備費等補助金制度により、設備の整備に要する経費の2分の1について国庫補助を受けて整備をする。補助対象となる設備は、1個または1組1万円以上のものである。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止						
	● 現行どおり								
	理科教材の充実、質の高い理科教育を提供するための基盤整備として極めて重要な役割を果たしている。特に、実験・観察に必要な最新の教育設備や教材の導入は、児童の興味・関心を引き出す効果が期待される。引き続き、国補助金を活用しながら理科設備の充実を図ってみたい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.2

令和6年度

事業名	中学校理科教育設備整備事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育		
	主要施策		①学校設備の整備						
2 予算の体系	款	10	項	3	目	1	事業	13	中学校管理用備品購入費
3 事業費 (決算額)	財源		令和4年度			令和5年度		令和6年度	
	国・県・支出金					528 千円		447 千円	
	その他財源					0 千円		0 千円	
	一般財源					529 千円		448 千円	
4 事業の目的	対象	町立中学校生徒							
	目的	科学的な知識、技能及び態度の習得の一助となるよう、実験器具、教材等の充実を図り、理科教育の環境整備に努める。							
5 事業の概要	国の理科教育設備整備費等補助金(昭和29年～ 根拠法令:理科教育設備整備費等補助金交付要綱)を活用し、理科・数学に関する教材等の設備を整備する。 【購入備品】顕微鏡、直流交流電源装置、磁化用コイル、アネロイド気圧計等								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	理科教育設備整備校数						2校	2校	
	整備率(交付決定時の金額／各校要求額)						95%	91%	
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		理科設備は高額であり、更新できず古い設備を使用し続けている学校もあることから、補助金を活用し設備を整備することは必要である。						
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか		各学校に希望設備を確認したことにより、不足している理科設備や新たな理科設備の整備が図れ、より充実した理科教育を実施することができた。						
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか		理科教育設備整備費等補助金制度により、設備の整備に要する経費の2分の1について国庫補助を受けて整備をする。補助対象となる設備は、1個または1組2万円以上のものである。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止						
	● 現行どおり								
	理科教材の充実、質の高い理科教育を提供するための基盤整備として極めて重要な役割を果たしている。特に、実験・観察に必要な最新の教育設備や教材の導入は、生徒の興味・関心を引き出す効果が期待される。引き続き、国補助金を活用しながら理科設備の充実を図ってみたい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.3

令和6年度

事業名	小学校入学祝い品贈呈事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育		
	主要施策		②生きる力の育成を重視した教育活動の推進						
2 予算の体系	款	10	項	2	目	2	事業	18	小学校入学祝い品支給事業費
3 事業費 (決算額)	財源		令和4年度			令和5年度		令和6年度	
	国・県・支出金					0 千円		0 千円	
	その他財源					4,801 千円		2,800 千円	
	一般財源					28 千円		1,534 千円	
4 事業の目的	対象	町に住所を有し、令和7年度に小学校等に入学者児童							
	目的	児童の健やかな成長を祝うとともに子育て家庭の経済的負担を軽減し、子育て支援の充実を図る。							
5 事業の概要	小学校新入学祝い品としてランドセルを贈呈する。 ランドセルの色は6色(ブラック・セピア・ネイビー・サックス・スマイル・ビビットピンク)から選択が可能である。								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	対象児童数(1月1日時点)						195 人	189 人	
	贈呈人数						185 人	181 人	
	贈呈率(贈呈数÷対象児童数)						94.9%	95.8%	
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		入学準備には多額の経費がかかるため、ランドセルを支給することにより、子育て世帯への経済的負担の軽減を図ることができる。						
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか		贈呈率が9割を超えていることから、保護者からの需要は高い。						
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか		購入先は入札により選定しており、適正価格での購入に努めている。 また、対象者への周知漏れが無いよう、広報いばらき、ホームページ、個別通知により周知している。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止						
	● 現行どおり								
	祖父母の方々から喜びの声を耳にしており、需要の高い事業と認識している。また、多色展開により子どもたちのニーズに応えようとする姿勢も評価できる。子どもたちの入学を祝う事業として、また、家庭への経済的支援においても効果があることから、今後も継続していただきたい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.4

令和6年度

事業名	道徳教育推進事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育		
	主要施策		②生きる力の育成を重視した教育活動の推進						
2 予算の体系	款	10	項	1	目	2	事業	17	道徳教育推進事業費
3 事業費 (決算額)	財源		令和4年度			令和5年度		令和6年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
	一般財源		120 千円			105 千円		115 千円	
4 事業の目的	対象	児童・生徒・教職員							
	目的	生命尊重の心や自尊感情を育み、規範意識や社会性の向上を図る。							
5 事業の概要	【道徳講演】命の大切さ、いじめ防止、情報モラル(携帯・パソコンの使用について)、障がい者、LGBTへの理解、道徳指導についてをテーマに各小中学校で講演会を行う。 【実施内容】メディア教育、がんについての講話、視聴覚障がい者によるフルートとギターの生演奏及び盲導犬のことや日常生活 についての講話								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	道徳講演会実施校数					6校	6校	6校	
	実演(演奏等)を含む道徳講演会実施校数					0校	0校	2校	
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		充実した道徳教育の時間を確保することは、児童・生徒の道徳性を養い、豊かな心を育成するために必要である。						
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか		道徳教育講演会は、各学校が講師を招き、子供たちが社会規範や情報モラルを学ぶ機会として積極的に執り行っている。児童・生徒からも積極的な意見交換がされ、豊かな心の育成を進めることが出来た。						
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか		各校において、児童・生徒の教育状況や現代的な課題に即した道徳教育を行っている。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止						
	● 現行どおり								
	町は以前から道徳教育を重点的に取り組んでいる。子どもたちの心の教育はとても大切な事業であるため、予算内で講師を依頼するのは大変かと思われるが、引き続き実施してほしい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.5

令和6年度

事業名	語学指導事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育		
	主要施策		②生きる力の育成を重視した教育活動の推進						
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	12	語学指導経費
3 事業費 (決算額)	財源		令和4年度			令和5年度		令和6年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
	一般財源		26,109 千円			26,851 千円		27,302 千円	
4 事業の目的	対象	児童・生徒							
	目的	児童・生徒の英語学力の向上と、国際社会において活躍できる人材の育成を目指す。							
5 事業の概要	外国人の英語指導助手(ALT)を小・中学校に各1名を配置し、児童・生徒の英語力の向上及び英語教育の充実を図る。								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	英語力の向上(県学力診断テスト1年生の平均点)					70.5点	59.4点	62.2点	
	県学力診断テスト1年生県平均点との差					-1.0点	-2.8点	1.0点	
	ALT配置状況					6名	6名	6名	
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		国際社会で活躍できるコミュニケーション能力の育成を図るため、英語力の向上は必要となる。						
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか		ALTの配置により、日常的に英語に触れる機会や外国の文化について学ぶ機会がとられている。また、授業においてもネイティブ・スピーカーが加わることでより質の高い授業が展開されている。						
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか		町がALTを直接雇用することにより、継続した採用が出来るようになり安定した授業を実施出来る。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止						
	● 現行どおり								
	ALTを直接雇用し、各校1名ずつ配置する体制は、多額の事業費を要するが、子どもたちが英語への関心や興味を持つには大変重要な取り組みである。良い人材を確保し、現行体制を今後も継続してもらいたい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.6

令和6年度

事業名	教育支援センター事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育		
	主要施策		③心の問題への対応						
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	13	教育支援センター経費
3 事業費 (決算額)	財源		令和4年度			令和5年度		令和6年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
	一般財源		6,945 千円			7,087 千円		7,801 千円	
4 事業の目的	対象	児童・生徒及び教職員							
	目的	不登校、暴力行為、いじめ等の未然防止及び早期対応と、不登校に陥った児童・生徒の社会復帰支援を行う。また、児童・生徒の指導に関する教職員からの相談に応じ、教職員の指導力向上を図る。							
5 事業の概要	【勤務時間】 年間を通じて、実情に応じた勤務(7時間以内/日、3日以内/週) 【勤務内容】 不登校等の生徒指導上の問題を抱える児童・生徒への指導や相談対応、教職員の生徒指導力向上を図るための研修、中学校の校内フリースクールでの支援教育相談員 6名、心理相談員 1名								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	不登校児童生徒数(30日以上・病欠を除く)					88人	70人	72人	
	児童100人あたりの不登校の出現者数					3.17人	1.63人	2.11人	
	生徒100人あたりの不登校の出現者数					5.99人	6.79人	6.74人	
	教育支援センターへの相談件数					782件	732件	830件	
	通級児童生徒数					7名	6名	6名	
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		不登校児童生徒の割合が増加傾向の状況にある中で、児童・生徒だけでなく、保護者や学校にとっても教育支援センターによる支援は必要である。						
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか		様々な理由により学校へ行くことができない児童・生徒にとって、自主性や社会性を育み、学校とのつながりを保つことで、学校へ行くきっかけをつくる場となっている。						
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか		経験豊富な教職経験者や専門職を起用し、学校・保護者と連携した対応をすることにより、問題に効率的・効果的に対応している。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止						
	● 現行どおり								
	学校へ行けない子どもたちが増加しており、子どもや保護者の心のよりどころとして、教育支援センターの必要性を感じている。子どもの不登校からの社会復帰のための支援の場として今後も継続していただきたい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.7

令和6年度

事業名	学習指導支援講師配置事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育		
	主要施策		②生きる力の育成を重視した教育活動の推進						
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	16	学習指導支援講師配置事業費
3 事業費 (決算額)	財源		令和4年度			令和5年度		令和6年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
	一般財源		13,851 千円			13,870 千円		15,511 千円	
4 事業の目的	対象	児童・生徒							
	目的	学習指導支援講師を配置することにより、少人数指導やチームティーチング等のきめ細やかな指導を実施する。							
5 事業の概要	【勤務時間】 年間1,050時間以内(6時間以内/日、30時間以内/週、5日以内/週) 【勤務内容】 学級担任とのチームティーチング指導 少人数の学習集団を形成し、個に応じたきめ細やかな指導を実施。								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	学習指導支援講師数(配置校数)					6人(6校)	6人(6校)	6人(6校)	
	全国学力・学習状況調査 対象:小学校第6学年児童 中学校第3学年生徒 「当てはまる」または「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童・生徒の割合	算数の勉強は好きですか				62.0%	64.9%	54.0%	
		算数の授業はわかりますか				83.8%	85.6%	82.3%	
		数学の勉強は好きですか				65.4%	54.1%	51.9%	
		数学の授業はわかりますか				86.7%	73.0%	66.3%	
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		講師を配置することで、少人数単位で柔軟に対応することができ、指導が行き届くようになるため必要性は高い。中学進学後のつまづきを防ぐためにも、小学校から中学校にかけて継続的にきめ細かい指導を展開していく必要がある。						
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか		特に算数は基本的な学力に個人差が生じやすく、小学校では算数を中心に個に応じた指導を展開しているため、算数の授業がわかると回答した小6の児童の割合については、80%以上を維持している。						
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか		各学校に配置されている講師は、同じ学校に複数年、継続勤務しているため、各学校の児童・生徒への理解を深めており、よりきめ細やかに各学校の実情や個に応じた指導を行うことにつながっている。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止						
	● 現行どおり								
	評価項目を特定科目(算数・数学)の勉強・授業を「好きか」、「分かるか」という児童生徒本人の気持ちの表現とした評価方法としていることは好感が持てる。点数による評価よりも、児童生徒をいかに支援するかに重きを置いて対応していることが理解できる。中学生の数値が年々下がっているのが気になるところではあるが、現状を維持し、支援を継続していただきたい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.8

令和6年度

事業名	特別支援教育支援員配置事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育		
	主要施策	②生きる力の育成を重視した教育活動の推進							
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	17	特別支援教育支援員配置事業費
3 事業費 (決算額)	財源		令和4年度			令和5年度		令和6年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
	一般財源		23,232 千円			24,810 千円		29,351 千円	
4 事業の目的	対象	肢体不自由や発達障害等により、個別に支援を要する児童・生徒							
	目的	通常学級及び特別支援学級に在籍する、肢体不自由や発達障害等により、個別に支援を要する児童・生徒に対して、校内における日常生活の介助や危険な行動の防止等安全面に配慮した支援を行う。							
5 事業の概要	【勤務時間】 小学校:年間900時間以内(6時間以内/日、5日以内/週) 【勤務内容】 日常生活の介助、教室間移動の介助、健康・安全確保、教材作成等								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	特別支援教育支援員数					22人	23人	24人	
	特別支援教育支援員配置校数					4校	4校	4校	
	支援を要する児童数／児童数(全体)					47人／1,322人	53人／1,285人	51人／1,277人	
	支援を要する生徒数／生徒数(全体)					7人／767人	4人／722人	7人／668人	
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		支援を要する児童・生徒は年々増加する傾向にあり、支援員は当該児童・生徒が学校生活をより快適に過ごし、学習面でも成長できるようにサポートする重要な役割を担っている。						
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか		支援を要する児童・生徒一人一人の状況に応じて丁寧に対応できるため、クラス全体の落ち着きや安全の確保につながっている。						
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか		特別支援学級については、有識者を委員とする教育支援委員会において、児童・生徒の情報を共有し、支援体制を決定している。通常学級についても、学校と支援員が児童・生徒の情報を共有することで、効率的・効果的に対処している。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止						
	● 現行どおり								
	就学前の時点で発達が気になる子どもが多いと感じているが、保護者の理解を得られないケースが多い。支援員の配置に十分な予算を計上して実施していることは大変評価できるものである。本来ならば更なる増員をしてもよいと思うが、現状を維持し、継続をしていただきたい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.9

令和6年度

事業名	中学生自然体験教室事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育		
	主要施策		②生きる力の育成を重視した教育活動の推進						
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	28	中学生自然体験教室事業費
3 事業費 (決算額)	財源		令和4年度			令和5年度		令和6年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		5,260 千円			7,140 千円		7,680 千円	
	一般財源		225 千円			408 千円		355 千円	
4 事業の目的	対象	生徒(中学2年生)							
	目的	学校の中では経験できない様々な体験や集団生活を通じて、生徒の新たな気付きや成長を促す。							
5 事業の概要	町内2校の中学2年生が合同で、4泊5日の日程で北海道の雄大な自然環境と文化を実体験する。 (町助成金 参加者一人あたり3万円) (R4は新型コロナウイルス感染症を考慮し、山梨県 富士山・河口湖方面2泊3日、町助成金一人当たり2万円)								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	明光中参加生徒数					141名	124名	159名	
	青葉中参加生徒数					104名	95名	97名	
	計					245名	219名	256名	
7 事業の評価	必要性	● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い							
	社会的要因や住民のニーズに即しているか	北海道の自然や文化を体感することや生徒同士の交流を深めることができ、生徒の成長につながる事業である。							
	有効性	● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない							
	目的とする実績や成果はあげられたか	自然や文化に触れることによる新たな気付きや集団生活による協調性及び自律性を育てることができた。							
	効率性	● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない							
	経費や手段は適切であるか	町負担金により保護者の負担軽減を図ることができた。学校や生徒が主体となって行程を検討できた。							
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止						
	● 現行どおり								
	自然体験教室に係る諸経費が値上がりしているため、町助成金が保護者の負担軽減につながっている。周辺市町村では北海道を取りやめる動きもあるが、北海道での自然体験学習は有意義な体験の機会であるので、今後も継続していただきたい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.10

令和6年度

事業名	農業体験事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育		
	主要施策		②生きる力の育成を重視した教育活動の推進						
2 予算の体系	款	10	項	1	目	3	事業	29	農業体験事業費
3 事業費 (決算額)	財源		令和4年度			令和5年度		令和6年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
	一般財源		114 千円			114 千円		116 千円	
4 事業の目的	対象	児童・生徒							
	目的	本町の基幹産業の一つである農業を地域の方の協力を得ながら体験することで、農家の大切さや、自然の豊かさを学習する。							
5 事業の概要	【小学校】 農家の方々からの指導・助言をもらいながら各校の計画により稲や野菜の栽培及び収穫を行う。 【中学校】 中学校近くの遊休農地において、年間を通して農作物を栽培し、収穫後の農作物の活用方法等も決める。								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目		令和4年度		令和5年度		令和6年度		
	実施内容		小学校 野菜、花の栽培(アサガオ、ホウセンカ、ピーマン、ナス、トマト、(トウモロコシ、ジャガイモ、サツマイモ、稲など)、観察、収穫、調理実習 中学校 サツマイモの収穫、販売、調理実習など		小学校 野菜、花の栽培(アサガオ、ホウセンカ、ピーマン、ナス、トマト、(トウモロコシ、ジャガイモ、サツマイモ)、観察、収穫、調理実習 中学校 サツマイモの収穫、販売、調理実習など		小学校 野菜、花の栽培(ナス、トマト、ピーマン、オクラ、ゴーヤ、インゲン豆、大豆、ジャガイモ、サツマイモ、トウモロコシ、米づくり、アサガオ等)観察、収穫、調理実習 中学校 サツマイモ、ニンジンの収穫		
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		茨城町の基幹産業である農業に対する興味・関心を高めるとともに、農業の重要性や勤労の尊さを学ぶ機会を与えるため、事業の必要性は高い。						
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか		生産者等の協力のもと、農家の大切さや自然の豊かさを学ぶことができた。また、仲間と協力して活動を行うことの大切さを学ぶことができた。						
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか		体験学習にかかる材料費、協力していただいた農家に対する謝金等を町予算から執行している。また、JA水戸や農業大学の協力を得て、職員を講師として派遣してもらっている学校もある。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止						
	● 現行どおり								
	町の特性を活かしながら、授業の一環として地域の方、JAの方に協力を得て農業体験に取り組んでいることは大変素晴らしいと思う。農業の一端に触れることで作物の成長や旬を知ることの勉強になる。子どもたちも楽しんでおり、今後も継続していただきたい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.11

令和6年度

事業名	スクールバス運行事業(小学校)						担当課	学校教育課
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育	
	主要施策		⑤安全対策・通学対策の推進					
2 予算の体系	款	10	項	2	目	1	事業	14 小学校スクールバス運行事業費
3 事業費 (決算額)	財源		令和4年度			令和5年度		令和6年度
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円
	その他財源		11,688 千円			10,467 千円		11,807 千円
	一般財源		76,454 千円			77,675 千円		76,336 千円
4 事業の目的	対象	青葉小学校・葵小学校に在籍し、おおむね3km以上の地区から通学する児童(希望制)						
	目的	学校統合により、遠距離通学となる児童の通学の安全及び負担の軽減を図る。						
5 事業の概要	【運行車両】大型バス5台、中型バス9台、小型バス3台(バス事業者に運行委託) 【運行日】原則として学校登校日(授業参観・体育祭等の学校行事が実施される際には、土日祝日・長期休業期間等であっても運行する) 【運行回数】1日あたり登校時1回、下校時1回の計2回 【停留所数】青葉小学校:49ヶ所、葵小学校:21ヶ所 【利用料】・利用者1人につき月額3,000円 【利用料】・ただし、同一世帯において、同時に2人以上の利用者がいる場合には、2人目の利用者に係る利用料は上記の額の2分の1の額。3人目以降は免除。 【利用料】・「登校のみ」又は「下校のみ」の場合の利用料は、月額の2分の1の額。							
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目			令和4年度		令和5年度		令和6年度
	スクールバス利用者数			451名		439名		465名
	スクールバス年間運行日数			199日		199日		200日
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い					
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		学校統合に伴う遠距離通学者の救済を目的とした事業であり、必要に応じて運行内容や方法を改善しながら恒久的な事業運営が必要である。					
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない					
	目的とする実績や成果はあげられたか		スクールバスを導入して11年目となり、教育委員会、学校、業者間の連絡もスムーズにとれるようになった。大きな事故もなく、遠距離通学者の通学手段として想定通りの成果をあげている。					
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない					
	経費や手段は適切であるか		運行内容や方法を精査するとともに、財源の確保、また利用者の公平性を保つためにも、利用料の未納分の徴収に努める。					
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止					
	● 現行どおり							
	スクールバスを運行することによって、児童が安全に登下校できることや、送迎などの家庭負担の軽減という観点から、重要な事業であると感じている。物価が高騰している中ではあるが、保護者負担金は現行水準で継続していただきたい。							

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.12

令和6年度

事業名	スクールバス運行事業(中学校)						担当課	学校教育課
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育	
	主要施策		⑤安全対策・通学対策の推進					
2 予算の体系	款	10	項	3	目	1	事業	14 中学校スクールバス運行事業費
3 事業費 (決算額)	財源		令和4年度			令和5年度		令和6年度
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円
	その他財源		874 千円			820 千円		961 千円
	一般財源		6,319 千円			6,373 千円		13,798 千円
4 事業の目的	対象	明光中学校に在籍し、長洲区及び後谷区等、遠距離から通学する生徒(希望制) 青葉中学校に在籍し、昭和区及び網掛区等、遠距離から通学する生徒(希望制)						
	目的	遠距離通学となる生徒の通学の安全及び負担の軽減を図る。						
5 事業の概要	【運行車両】中型バス1台、小型バス1台(バス事業者に運行委託) 【運行日】原則として学校登校日(授業参観・体育祭等の学校行事が実施される際には、土日祝日・長期休業期間等であっても運行する) 【運行回数】1日あたり登校時2回、下校時2回の計4回(明光中は登校時1回) 【停留所数】明光中4ヶ所、青葉中4ヶ所 【利用料】・利用者1人につき月額3,000円 【利用料】・ただし、同一世帯において、同時に2人以上の利用者がいる場合には、2人目の利用者に係る利用料は上記の額の2分の1の額。3人目以降は免除。 【利用料】・「登校のみ」又は「下校のみ」の場合の利用料は、月額の2分の1の額。							
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目			令和4年度		令和5年度		令和6年度
	スクールバス利用者数			32名		33名		35名
	スクールバス年間運行日数			200日		198日		201日
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い					
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		学校統合に伴う遠距離通学者の救済を目的とした事業であり、必要に応じて運行内容や方法を改善しながら恒久的な事業運営が必要である。					
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない					
	目的とする実績や成果はあげられたか		教育委員会、学校、業者間の連絡もスムーズにとれるようになった。大きな事故もなく、遠距離通学者の通学手段として想定通りの成果をあげている。					
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない					
	経費や手段は適切であるか		運行内容や方法を精査するとともに、財源の確保、また利用者の公平性を保つためにも、利用料の未納分の徴収に努める。					
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止					
	● 現行どおり							
	スクールバスを運行することによって、生徒が安全に登下校できることや、送迎などの家庭負担の軽減という観点から、重要な事業であると感じている。物価が高騰している中ではあるが、保護者負担金は現行水準で継続していただきたい。							

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.13

令和6年度

事業名	小学生ヘルメット配布事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育		
	主要施策		⑤安全対策・通学対策の推進						
2 予算の体系	款	10	項	2	目	2	事業	14	通学援助費
3 事業費 (決算額)	財源		令和4年度			令和5年度		令和6年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
	一般財源		882 千円			996 千円		824 千円	
4 事業の目的	対象	児童							
	目的	登下校時における交通事故の未然防止に努め、児童の安全を確保することを目的とする。 また、家庭において自転車を乗る際の着用を推進する。							
5 事業の概要	新入学児童、4年生及び転入児童にヘルメットを無償で配布する。								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	ヘルメットの無償提供数					430名	448名	445名	
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		登下校時や家庭における安全対策が必要である。						
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか		登下校中の児童を重大な事故から守り、また安全と安心が得られるなど一定の効果が期待できる。						
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか		新入学児童の増減により経費は変動する。また、転入の対応として追加購入することもあるため、児童数の推移を注視しながら対応している。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止						
	● 現行どおり								
	児童の成長とヘルメットの耐用年数を考慮し、新入学児童だけでなく4年生にも配布していることは良い取組であると評価できる。また、安全意識向上と事故防止という観点から極めて有効であり引き続き継続していただきたい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.14

令和6年度

事業名	中学生ヘルメット配布事業						担当課	学校教育課	
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	1 学校教育		
	主要施策		⑤安全対策・通学対策の推進						
2 予算の体系	款	10	項	3	目	2	事業	14	通学援助費
3 事業費 (決算額)	財源		令和4年度			令和5年度		令和6年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
	一般財源		711 千円			606 千円		627 千円	
4 事業の目的	対象	生徒							
	目的	登下校時における交通事故の未然防止に努め、生徒の安全を確保することを目的とする。 また、家庭において自転車を乗る際の着用を推進する。							
5 事業の概要	新入学生徒及び、転入生徒に対し、ヘルメットを無償で配布する。								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	ヘルメットの無償提供数					232名	239名	205名	
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		自転車通学時や家庭での自転車利用時の安全対策に必要である。						
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか		登下校中の生徒を重大な事故から守り、また安全と安心が得られるなど一定の効果が期待できる。						
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか		新入学生徒の増減により経費は変動する。無償配布により入学時の保護者の負担を軽減することとなっている。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止						
	● 現行どおり								
	自転車のヘルメット着用努力義務化に伴い、啓発の意味を含めて当事業の意義は大きい。また、安全意識向上や事故防止という観点からも極めて有効であり、引き続き継続していただきたい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.15

令和6年度

事業名	青少年育成事業						担当課	生涯学習課	
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	5 青少年健全育成		
	基本施策		④青少年の体験・交流活動等への参画促進						
2 予算の体系	款	10	項	5	目	2	事業	12	青少年育成事業費
3 事業費 (決算額)	財源		令和4年度			令和5年度		令和6年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		76 千円			70 千円		93 千円	
	一般財源		47 千円			67 千円		9 千円	
4 事業の目的	対象	児童・生徒							
	目的	様々な体験活動や学習機会を提供し、子どもたちの人間性・創造性を育むことを目的とする。							
5 事業の概要	<自然体験事業> ①里山自然体験事業 竹で弓を製作し、的当て大会を実施(参加者:8名) ②夏休み体験教室 いかだ乗り、ピザづくり、あけぼの工場見学(参加者:34名)								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	体験事業参加人数					21 人	39 人	42 人	
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		日常では経験できない様々な体験、交流活動を通して、創造性、協調性を育む機会を提供している。						
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか		異年齢の子どもたちが、町の自然を生かした体験や多様な学習を行うことで、自主性、協調性及び社会性の習得に結びついている。						
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか		里山体験では、常陽森のボランティアに委託したことにより充実した内容と職員の負担軽減になった。募集のチラシは小、中学校を通して配信し、窓口、FAX、インターネットを利用して申し込みの受付を行っている。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止						
	● 現行どおり								
	当事業は子どもたちの自然への関心や社会性の向上だけでなく、地域住民やボランティアとの連携強化にもつながっており、地域資源を活用した取り組みは地域振興においても大切であることから、今後も継続していただきたい。 また、子どもたちにとっては普段できない貴重な体験を通して学びと成長に寄与する機会であり、今後も参加者がさらに増えるよう、引き続き努力していただきたい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.16

令和6年度

事業名	放課後子ども教室事業						担当課	生涯学習課	
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	5 青少年健全育成		
	基本施策		③ 家庭・地域の教育機能の向上						
2 予算の体系	款	10	項	5	目	2	事業	13	放課後子ども教室推進事業費
3 事業費 (決算額)	財源		令和4年度			令和5年度		令和6年度	
	国・県・支出金		872 千円			734 千円		835 千円	
	その他財源		737 千円			798 千円		882 千円	
	一般財源		3,176 千円			3,024 千円		3,420 千円	
4 事業の目的	対象	児童							
	目的	小学校の施設を利用して、児童が放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験活動を行う機会を設ける。							
5 事業の概要	町内全4小学校において、6月～翌2月まで週1回実施。 長岡小学校、大戸小学校、葵小学校は定員60名、青葉小学校は定員70名。 放課後の時間を利用して、自主学習、スポーツ体験活動等を行っている。								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	実施校数					4校	4校	4校	
	参加者数					218人	235人	245人	
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		子供たちの安全・安心な活動拠点として、様々な学習、スポーツ体験活動等を提供している。						
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか		異年齢との活動や様々な体験により豊かな人間性を育む場となっている。						
	効率性		○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか		アンケート調査を実施し、実施内容の検討・充実を図っている。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止						
	● 現行どおり								
	参加児童数が年々増加していることと、参加者へのアンケート調査により児童や保護者からも好評を得ているとのことであり、多くの子どもたちが安心して通える環境が整備されていることが伺える。 今後も利用者の声を聞きながら、国の補助金を活用して事業を実施していただきたい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.17

令和6年度

事業名	町民教養講座開設事業						担当課	生涯学習課																				
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	2 生涯学習																					
	基本施策		④ 特色ある講座・教室の企画・開催																									
2 予算の体系	款	10	項	5	目	5	事業	13 町民教養講座開設事業費																				
3 事業費 (決算額)	財源		令和4年度			令和5年度		令和6年度																				
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円																				
	その他財源		140 千円			260 千円		153 千円																				
	一般財源		191 千円			89 千円		411 千円																				
4 事業の目的	対象	全町民																										
	目的	町民の自主的な学習活動を支援するため、町民の学習ニーズを的確に把握しながら、既存の講座や教室等の充実を核に、多彩で特色ある講座や教室の企画・開催することを目的とする。																										
5 事業の概要	【事業内容】 12講座開催 <table border="0"> <tr> <td>①和竿づくり（長期）</td><td>(12回:4人)</td> <td>こども教室 7講座</td><td></td></tr> <tr> <td>②初めてでも楽しい切り絵（長期）</td><td>(5回:10人)</td> <td>ストリートダンス、スライム作り 等</td><td>(計118人)</td></tr> <tr> <td>③パステルアート（長期）</td><td>(3回:14人)</td> <td>アウトリーチ事業</td><td></td></tr> <tr> <td>④あじさいリースづくり（短期）</td><td>(1回:14人)</td> <td>長岡小、葵小 6年生対象</td><td></td></tr> <tr> <td>⑤みんなで楽しく合唱（長期）</td><td>(8回:8人)</td> <td>「アクターズレンズ～写真でわくわく 想像のつばさを広げよう～」</td><td>(計86人)</td></tr> </table>								①和竿づくり（長期）	(12回:4人)	こども教室 7講座		②初めてでも楽しい切り絵（長期）	(5回:10人)	ストリートダンス、スライム作り 等	(計118人)	③パステルアート（長期）	(3回:14人)	アウトリーチ事業		④あじさいリースづくり（短期）	(1回:14人)	長岡小、葵小 6年生対象		⑤みんなで楽しく合唱（長期）	(8回:8人)	「アクターズレンズ～写真でわくわく 想像のつばさを広げよう～」	(計86人)
①和竿づくり（長期）	(12回:4人)	こども教室 7講座																										
②初めてでも楽しい切り絵（長期）	(5回:10人)	ストリートダンス、スライム作り 等	(計118人)																									
③パステルアート（長期）	(3回:14人)	アウトリーチ事業																										
④あじさいリースづくり（短期）	(1回:14人)	長岡小、葵小 6年生対象																										
⑤みんなで楽しく合唱（長期）	(8回:8人)	「アクターズレンズ～写真でわくわく 想像のつばさを広げよう～」	(計86人)																									
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目		令和4年度		令和5年度		令和6年度																					
	長期講座受講者数		43 人		94 人		36 人																					
	短期講座受講者数		54 人		24 人		14 人																					
	子ども教室参加者数		146 人		74 人		118 人																					
	学校アウトリーチ事業		0 人		125 人		86 人																					
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い																									
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		町民一人ひとりが豊かな情操を育み、自らの学習意欲を高め、生活文化の向上を図るため、前年の受講生の意見等を反映し、町民のニーズに応える企画開催に努めた。																									
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない																									
	目的とする実績や成果はあげられたか		町民が新たな学習活動始める機会を支援し、受講後のアンケートでも好評を頂いたほか、講座修了後クラブ化し、生涯学習として継続していく体制になっている。																									
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない																									
	経費や手段は適切であるか		全戸にチラシを配布し、FAX、インターネットでの受付を行っている。関係機関や多方面からの情報収集などにより、講座の充実を図っているほか受講生から頂いた実費負担は講師謝礼に充て、適切な処理を行っている。																									
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止																									
	● 現行どおり																											
	地域住民の生涯学習意欲を喚起し、地域コミュニティの活性化が図れることと、参加者同士の交流促進や自己啓発意欲の向上など間接的な成果もみられる。良い事業であるため、ぜひ、事業を継続することと、より多くの方に参加してもらえるよう、全戸配布のチラシが届かない方への周知方法について検討をお願いしたい。																											

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.18

令和6年度

事業名	長生大学運営事業						担当課	生涯学習課								
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	2 生涯学習									
	基本施策		④ 特色ある講座・教室の企画・開催													
2 予算の体系	款	10	項	5	目	5	事業	14	長生大学事業費							
3 事業費 (決算額)	財源		令和4年度			令和5年度		令和6年度								
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円								
	その他財源		129 千円			145 千円		100 千円								
	一般財源		64 千円			0 千円		21 千円								
4 事業の目的	対象	65歳以上の町民														
	目的	時代に対応する心構えを養い、心身ともに健康で、生きがいづくりの一環として学習やクラブ活動を行うことを目的とする。														
5 事業の概要	【事業内容】 実施回数：22回(学習会6回、クラブ活動16回) 活動内容：学習会(講話聴講)、クラブ活動 受講料：1,000円 受講者数：100名 ＜学習会＞ ①開講式・優しい人権講座 ②特殊詐欺の手口と防ぐポイント③幸せは口元から(歯科予防) ④懐かしい歌で楽しく脳活 ⑤ハローミュージアム ⑥話の玉手箱 ＜クラブ活動＞ 大正琴クラブ 8回、民舞クラブ 8回															
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和4年度	令和5年度	令和6年度								
	長生大学受講生数(延べ)					401 人	530 人	463 人								
	クラブ活動者数(延べ)					160 人	144 人	144 人								
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い													
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		長生大学の受講者の意見等を反映し、参加者の希望に添う事業運営に努めている。													
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない													
	目的とする実績や成果はあげられたか		健康増進課等と連携し、健康に関する講座を企画・運営を行うほか、高齢者の生きがいづくりや、コミュニケーションの場を提供し、生涯を通じた学びの場となっている。													
	効率性		○ 効率的である ● おおむね効率的である ○ 効率的でない													
	経費や手段は適切であるか		回覧でチラシを配布し、また、高年者クラブを介した周知等、対象者へ届くよう情報提供を行った。参加者送迎に行政バスを利用するほか、受講生から頂いた実費負担は講師謝礼に充て、適切な処理を行っている。													
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止													
	● 現行どおり															
	高齢者にとっては社会とのつながりが大切であるため、継続して実施していただきたい。 茨城県社会福祉協議会が実施している元気シニアバンク事業では、様々な分野の講師派遣(公演や指導)を行っているため、事業目的と合致しているものがあれば、活用を検討してみてもどうか。															

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.19

令和6年度

事業名	図書館運営事務						担当課	生涯学習課(図書館)	
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	2 生涯学習		
	基本施策		② 生涯学習関連施設の整備充実・利用促進						
2 予算の体系	款	10	項	5	目	6	事業	11	図書館運営事務費
3 事業費 (決算額)	財源		令和4年度			令和5年度		令和6年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
	一般財源		9,005 千円			9,751 千円		9,808 千円	
4 事業の目的	対象	図書館利用者(町内及び広域・域外)							
	目的	図書館は地域の情報発信拠点として、利用者に十分な資料の貸出や各種サービス及び情報提供することを目的としている。							
5 事業の概要	一般利用者及び町内施設等へ資料貸出を行う。町民の学習、読書意欲に応えるため、幅広い資料収集に努め、また、幼児・児童・生徒に対し読書を習慣づける取り組みとして、図書の出前、総合学習の支援等を行い、また施設見学、職場体験などを積極的に受入れ、図書館利用促進につなげる。								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	資料の貸出(相互貸借・団体貸出を除く)					100,621冊・点	99,375冊・点	93,910冊・点	
	団体貸出(出前サービス含む)					13,547冊	14,187冊	12,861冊	
7 事業の評価	必要性		○ 必要性が高い ● 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		多種多様なリクエスト・レファレンスが多い中、ネットワーク等を活用して住民のニーズに合った迅速な資料・情報の提供を行っているが、近年、スマートフォン、タブレット端末等の普及により電子書籍の需要が高くなり、なかなか利用者の増加に結びつかない現状がある。						
	有効性		○ 効果がある ● 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか		図書資料の貸出については、一般利用者のほか、保育園や幼稚園、小・中学校、施設などに対し「図書の出前」サービス等で積極的な貸出を行い、継続的な図書館利用に結びつけられるよう努めている。						
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか		図書資料については、利用者の要望等に応えながら、幅広い選書かつ無駄のない選定による購入を行うとともに、あわせて相互貸借(県内図書館)を活用し、充実した資料の収集・提供を図っている。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止						
	● 現行どおり								
	昨年は利用者、貸出数とも減っているが、システム更新時の休館という物理的な理由でもあり、致し方ない。茨城町の図書館は分かりやすいように分類、整理されており、PC検索も簡単で資料を探しやすく、他市町村と比べても利用しやすい。出前サービスは幼稚園でもお世話になっており、今後も続けていただきたい事業である。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.20

令和6年度

事業名	読書推進活動事業						担当課	生涯学習課(図書館)	
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	2 生涯学習		
	基本施策		⑤ 読書活動の推進						
2 予算の体系	款	10	項	5	目	6	事業	12	読書推進活動事業費
3 事業費 (決算額)	財源		令和4年度			令和5年度		令和6年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
	一般財源		269 千円			239 千円		212 千円	
4 事業の目的	対象	乳幼児・児童・生徒(町内小学校・中学校・高校含む)							
	目的	定期的な図書館での読み聞かせ事業のほか、小学校へ図書館司書派遣を行うことで、乳幼児・児童・生徒に対し、本に慣れ親しみやすい環境を与え、読書推進を図ることを目的とする。							
5 事業の概要	乳幼児向けに「絵本となかよし」児童・生徒・一般向けに「おはなし会」を実施している。町内小学校へは図書館司書を派遣し、図書館資料お届けサービスや学校図書室の環境整備を行う。さらに「ふるさと出前講座」を利用し、高校で図書館案内、ブックトーク等を行い、図書館利用・読書推進につながるよう努めた。また、令和7年度改訂の「茨城町子ども読書推進計画(第3次)」を策定した。								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	読み聞かせ「絵本となかよし」「おはなし会」の実施					247人	309人	269人	
	小学校への図書館司書派遣(司書派遣回数)					59回	60回	60回	
	図書館資料お届けサービス(ぶっくるん)					474冊	381冊	304冊	
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		近年、インターネットやスマートフォン等様々な情報メディアが普及し、「読書離れ」「活字離れ」が進む中、子どもたちが読書を通じて豊かな感性を育み、読書をする楽しさを感じることができるよう家庭・学校・地域と連携し、読書活動を推進することが求められる。						
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか		図書館で読み聞かせ事業を行うことで、子どもたちの読書に関する興味・関心を高め、家庭での読書習慣へとつながられるよう努めた。また図書館司書派遣事業では、定期的に小学校へ司書を派遣し、学校図書室の整備など支援活動を行いながら児童たちと交流を図ることで、児童が本へ興味を持ち、慣れ親しみやすい環境を与えることができた。						
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか		ボランティアの方々と連携し、「育児はひとりではかえれない」を基本として、絵本の楽しさを伝達しながら子育て支援を実施している。また幅広い年代への人づくり教育を視野に入れ、図書館の資料を通して「しつけ・伝統・文化」を共に学んでいる。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止						
	● 現行どおり								
	単なる図書提供だけでなく、「読むこと」の楽しさや価値観を育むため、学校図書室への図書館司書の派遣は、とても有意義な事業である。本に触れる機会を作ることで子どもたちの読書意欲向上に寄与していると思う。これからも学校と連携しながら堅実な図書室運営をするとともに、児童が人を思いやる心を育むことにつながる本との出会う機会をこれからもつづけていただきたい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.21

令和6年度

事業名	ブックスタート・セカンドブック事業						担当課	生涯学習課(図書館)	
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち				節	2 生涯学習		
	基本施策		⑤ 読書活動の推進						
2 予算の体系	款	10	項	5	目	6	事業	14	ブックスタート・セカンドブック事業費
3 事業費 (決算額)	財源		令和4年度			令和5年度		令和6年度	
	国・県・支出金		0 千円			0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円			0 千円		0 千円	
	一般財源		93 千円			63 千円		285 千円	
4 事業の目的	対象	生後5～9か月児、1歳6か月児							
	目的	ブックスタート・セカンドブック事業では、絵本の読み聞かせを通して、親子でふれあう時間を持つきっかけづくりをし、楽しいやりとりと子どもの言葉の成長を後押しする。							
5 事業の概要	ブックスタート事業は、生後5～9か月児を対象に健康増進課、こども課で実施する離乳食教室及び育児相談で、図書館司書とボランティアが絵本の読み聞かせを行い絵本を配布する。またブックスタートのフォローアップ事業であるセカンドブックでは、1歳6か月児健診受診者を対象として「絵本注文チケット」を配布し、絵本の主人公が子どもの名前となる「オリジナル絵本」を作成することができる。								
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目					令和4年度	令和5年度	令和6年度	
	ブックスタート事業(絵本パック)					87人	99人	82人	
	セカンドブック事業(絵本注文チケット)							94人	
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い						
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		少子化や核家族化が進み、人と人、地域との繋がりが希薄となりつつある現在、孤立しがちな子育てをボランティアと連携しながら、家庭・地域・図書館など様々な角度から支援していくことが求められている。						
	有効性		○ 効果がある ● 一定の効果がある ○ 効果がない						
	目的とする実績や成果はあげられたか		ブックスタートでは、赤ちゃん、お母さんと図書館司書やボランティアと対面での読み聞かせを実施し、「絵本を通じて親子がふれあう時間を持つ大切さ」を伝えることができた。セカンドブックは初年度ということもあり、事業が浸透するまで時間がかかったが、後半は徐々に申込者を増やすことができた。						
	効率性		● 効率的である ○ おおむね効率的である ○ 効率的でない						
	経費や手段は適切であるか		ブックスタート・セカンドブック事業では健康増進課、こども課と連携しながら、対象者にもれなく「絵本」「絵本注文チケット」が手渡せるようにした。特に新規事業であるセカンドブックは手探り状態であったため、毎回反省点を洗い出し、申込者が増えるようチケットを渡す際の言葉の伝え方などを工夫しながら行った。						
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止						
	● 現行どおり								
	年齢に応じてオリジナル絵本を作成して配布することは、子どもにとって思い出に残る事業である。絵本は人の心を感動させる力を持っている。保護者をはじめ、色々な方から意見を聞き、子どもにとって記念に残る大切な本を作っていただきたい。								

教育に関する事務事業の点検・評価シート

事業 No.22

令和6年度

事業名	学校訪問事業				担当課	学校給食共同調理場
1 総合計画の体系	章	3 次代を担う人を育む教育・文化のまち			節	1 学校教育
	主要施策		⑥学校給食の充実			
2 予算の体系	款		項		目	事業
3 事業費 (決算額)	財源		令和4年度		令和5年度	
	国・県・支出金		0 千円		0 千円	
	その他財源		0 千円		0 千円	
	一般財源		0 千円		0 千円	
4 事業の目的	対象	小・中学校及び町立幼稚園(児童・生徒及び園児)				
	目的	子どもたちが、食事についての正しい知識と食文化や食材の生産・消費についての理解を深めることで、食についての関心を高めてもらうことを目的とする。				
5 事業の概要	【食育・地産地消の推進】 毎年6月と11月に学校訪問事業を各学校等へ各2回実施している。内容については、小学校2年生には「食品ロスについて」、5年生には「和食について」、中学生には「減塩について」、幼稚園には「ひめ丸くんメニューについて」と題しそれぞれの学年に合わせた講話を実施するなど、食事についての正しい知識と食文化や食材の生産・消費について理解を深めてもらえるよう努めている。 【喫食状況等の確認】 喫食状況をはじめ、主菜・副菜の配食量や食器具の使用状況、さらには食べ残しの状況についても確認をしている。 【アンケート調査の実施】 子どもたちの食習慣の実態を把握し献立など今後の業務全般に活用するため、一日の体内時計をリセットする効果があるとされる朝食の摂取状況など食生活に関するアンケート調査を実施している。					
6 事業の実施状況 (各種指標)	項目		令和4年度		令和5年度	
	学校訪問の実施(回数)		4回		15回	
	朝食の摂取率		89.00%		87.20%	
	町内産農産物の給食使用率		46.50%		57.95%	
7 事業の評価	必要性		● 必要性が高い ○ 一定の必要性がある ○ 必要性が低い			
	社会的要因や住民のニーズに即しているか		学校給食は、栄養面で成長期に当たる子どもたちの身体を支えるとともに、感謝の気持ちを育んだり、生涯にわたる食習慣の基礎を培う重要な役割を担っている。			
	有効性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない			
	目的とする実績や成果はあげられたか		食事についての正しい知識と食文化や食材の生産・消費についての理解を深めることができるよう、食に関する指導について子どもたちへ実施できた。			
	効率性		● 効果がある ○ 一定の効果がある ○ 効果がない			
	経費や手段は適切であるか		子どもたちの給食の時間帯を利用し訪問事業を行っているため、学校の授業に影響も少なく、実際の配食量や食器具等の使用状況、さらには、喫食の状況や食べ残し状況も確認できている。			
8 評価委員意見 (今後の方針・課題等)	○ 改善が必要		○ 拡大 ○ 縮小 ○ 休止 ○ 廃止			
	● 現行どおり					
食育と学校給食の質向上という観点から有効であると思う。また、学校給食は家庭の事情で不足する栄養を補う役割を担っている側面もあり、なくてはならない事業である。 町内産の食材を積極的に使用するなど、今後とも関係者一丸となって取り組み、安全・安心かつ栄養豊富な学校給食の提供体制を築きあげていただきたい。						

教育委員会における今後の対応について

学識経験を有する評価委員から今後の方針等、貴重なご意見をいただき、令和6年度の教育に関する事務事業の点検及び評価を実施いたしました。

点検及び評価の手法につきましては、事業の必要性、有効性及び効率性の観点から定量的指標を示すことにより、公平かつ客観的な評価の実施に努めました。そのうえで令和6年度における主要22事業についての点検及び評価を実施し、事業の成果や課題の検証、さらに今後の事業方針等を確認いたしました。

点検及び評価を実施した結果、評価対象である22事業について概ね良好に執行されているとして、今後についても現行どおりの事業運営を継続すべきであるとの評価をいただきました。

各事業にてご意見やご指摘をいただきました課題や改善事項につきましては、個々の事業を再点検し、より事業の効果を高めるべく、教育行政の一層の推進に努めてまいります。

さらに、次年度の点検及び評価につきましては、引き続き、点検及び評価の手法を改良し、実効性が高い評価の在り方を検討してまいります。

茨城町教育委員会は、評価委員からいただいた貴重なご意見をもとに、事業のさらなる改善を図り、町民に信頼され、支持される教育行政の運営に努めてまいります。

令和7年8月

茨城町教育委員会